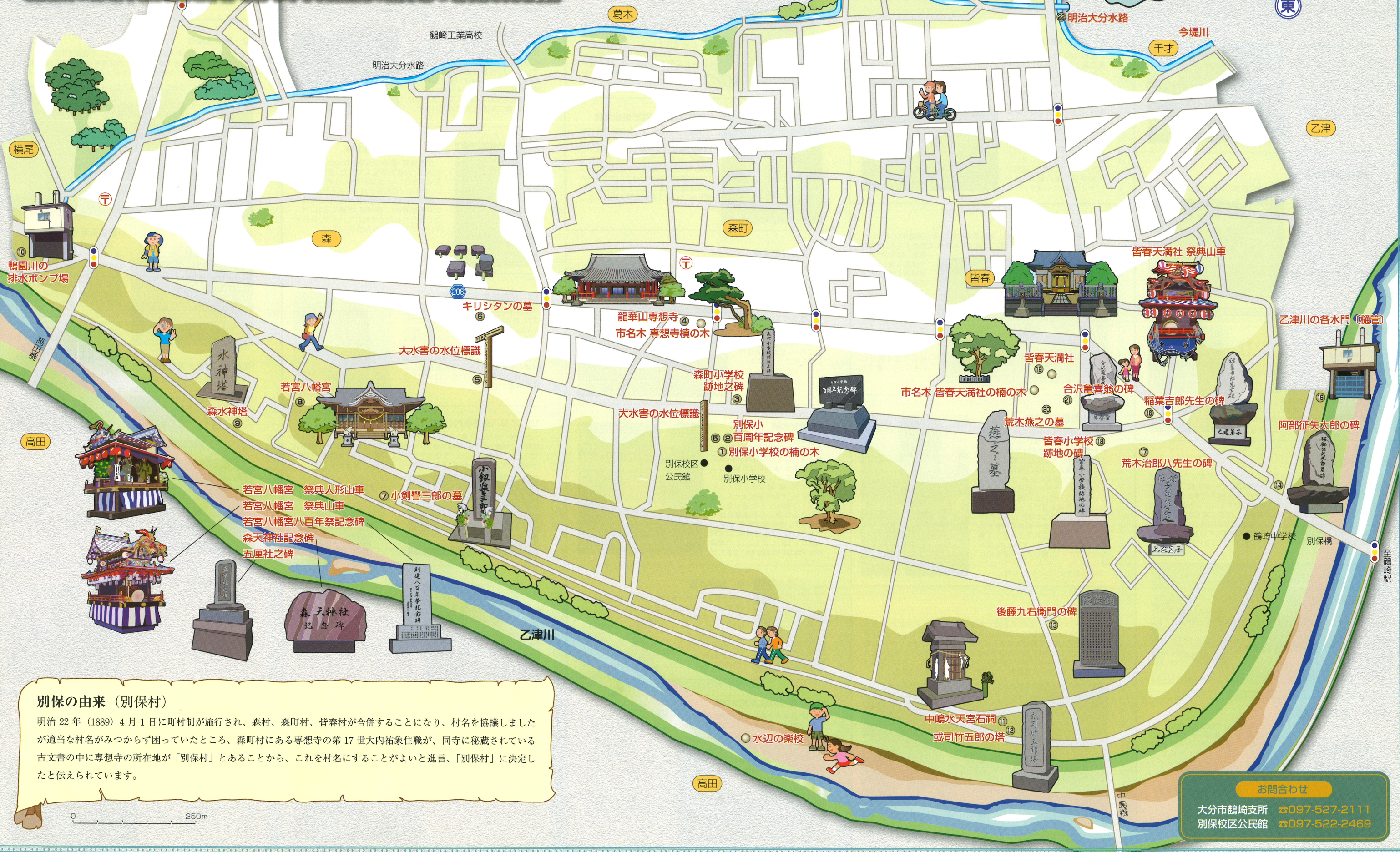
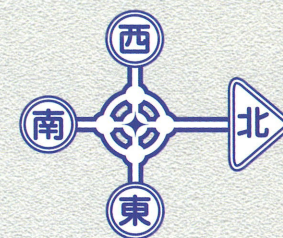


別保校区歴史マップ

History map

乙津川のほとり澄んだ疎水がながれ、人と歴史の息づかいが聞こえる街。



別保の由来 (別保村)

明治 22 年 (1889) 4 月 1 日に町村制が施行され、森村、森町村、皆春村が合併することになり、村名を協議しましたが適当な村名がみつからず困っていたところ、森町村にある専想寺の第 17 世大内祐象住職が、同寺に秘蔵されている古文書の中に専想寺の所在地が「別保村」とあることから、これを村名にすることがよいと進言、「別保村」に決定したと伝えられています。

お問い合わせ
 大分市鶴崎支所 ☎097-527-2111
 別保校区公民館 ☎097-522-2469

別保校区歴史マップ

乙津川のほとり澄んだ疎水がながれ、人と歴史の息づかいが聞こえる街。

1 別保小学校校木の木

明治36年(1903)別保小学校の卒業生が背丈ほどの楠の木を先生と一緒に心をこめて記念に植えました。その後、戦争や風水害等に耐えながら現在まで生き抜き、別保小学校の児童等を見守っています。



2 別保小百周年記念碑

明治25年(1892)皆春尋常小学校と森町尋常小学校が統合して別保尋常小学校が誕生し、森町の現在地に校舎を建設、昭和50年(1975)10月22日に開校100周年記念行事が盛大に行われました。記念事業として別保小学校発祥の地記念碑建立(皆春小学校跡・森町小学校跡)、100周年記念碑建立、国旗掲揚塔建設、記念樹木園新設等が行われました。



3 森町小学校跡地の碑

明治8年(1875)創設。森町、森、葛木を学区として授業を開始し、明治20年(1887)4月1日より尋常小学校となりました。明治22年(1889)4月1日森村、森町村、皆春村が合併し別保村となりました。明治25年(1892)7月13日皆春尋常小学校と統合し、現在の別保小学校の位置に別保尋常小学校として移転しました。



4 龍華山専想寺

浄土真宗本願寺派。本尊は阿彌陀如来。開基は天然釈浄祐です。天然は周防国山口の人で、文明8年(1476)高田郷森町に一寺を創したのが専想寺の起源です。その6年後、上京した天然は、本願寺の蓮如上人の弟子となり浄土真宗に改宗。文明16年(1484)に蓮如上人から西国九州伝道の命を受け森町に帰り、専想寺を根本道場として広く浄土真宗の弘通に努めました。その教化は九州をはじめ中国地方にまで及びました。九州最古の真宗寺院として名高く数多くの寺宝を所蔵しています。昭和50年(1975)本堂を焼失。現在の本堂は昭和56年(1981)3月に完成したものです。



市名木 専想寺の檜の木

昭和49年(1974)2月1日、大分市の名木として指定されました。樹齢150年位、高さ5m、幹周1.8m日本堂の建立の際、檀家から寄進を受けたもので、その当時、すでに相当古く大きなもので、檀家の人が乗ってきた馬をつないでいたと言われています。昭和50年(1975)2月19日の本堂火災で一部焼失しました。[高さ等は平成18年度調査]



5 昭和18年大水害と水位標識

昭和18年(1943)9月20日の大洪水で、別保地区の住宅の殆どが2m程度の床上浸水となり、地区一帯は泥海と化し家畜、家具類、木材等々を浮かべ漂流となり恐ろしい光景でした。別保地区で6人の溺死者があり、この洪水で、現在の若宮八幡宮の東(乙津川河川敷内)にあった旧制鶴崎中学校(鶴崎高等学校)の校舎が流失しました。別保小学校は、校舎の床上1.51mの大浸水。校舎の破損校具の流失が多数あり3名の児童が溺死しました。洪水の水位の痕跡が、森町の阿部成美氏宅の壁面(床上1.73m)に残っています。



6 キリシタンの墓

徳川幕府はキリスト教を禁じ、寛永5年(1628)から徹底的にキリシタン狩りを開始し、明治6年(1873)に廃止されるまで続きました。現在の皆春、当時の門田村は貞享3年(1686)頃幕府の直轄地で田藩に属し、高松代官は信者を逮捕し、長崎奉行に差し出しました。森村、森町村は臼杵藩に属し、踏み絵の方法でキリシタンの摘発が行われました。別保校区に残る数少ないキリシタン墓です。



7 小剣曾三郎の墓

森村に生まれた幸譽三郎。生年等不明ですが、天保12年頃(1841頃)の生まれと推定されます。小剣は力士のしこ名。上方相撲界に入り上位に君臨するようになり、慶応3年頃(1867頃)故郷に錦を飾るべく帰郷の途中、下関より航路別府に向かう船中(別府へ上陸後ともいう)同行した力士に毒入り饅頭を食わされ、最後を遂げたと言われています。[享年27歳位と推定]。明治20年(1887)栄光の力士を末永く顕彰するとともに、後世にこれを伝えようと墓碑を森村字乗越に建てましたが、度々の水害で流失し、墓石だけが現在地に移しました。(別保小記念誌「にぐるま」引用)。



8 若宮八幡宮

鎌倉時代(1192~1333)の創建で豊後の国の守護友能直が、鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮の分霊を祀ったものと言われています。初めは大分市大字横尾字岩船にあって岩船八幡宮として建立されたのに始まります。昭和18年(1943)の大洪水に伴って乙津川の改修工事のため、森天神社の宮地(現在地)に昭和40年(1965年)移築し、森天神社と合祀して若宮八幡宮となりました。祭神は「大鷦鷯尊(オオサギノミコト)」「菅原道真公」。



・若宮八幡宮 祭典人形山車(旧森天神社)

明治初期に大分市三佐で建造されたものです。当時の別保村は、道路事情が悪かったために、小型のものに造り替える話もちあがり、森町青年の有志が地区民と語り、明治27年(1894)に400円で購入したものです。[当時米一俵3円66銭でした。]



・若宮八幡宮 祭典山車(旧森天神社)

「ダンジリ囃子」は、その昔徳川時代に竹田岡藩主が参勤交代で領内の三佐港から出港、帰港の際に三佐地区民が送り迎えのために、離立っていました。山車の購入と共に森町青年の有志が三佐に通いの囃子を習い覚え、神幸祭の囃子として現在に至っています。



・若宮八幡宮八百年祭記念碑

平成8年(1996)3月に若宮八幡宮が創建800年を迎えるにあたり、平成5年(1993)奉賛会を組織し、記念事業として神殿、拝殿、宝物等の修復、稲荷社の移転、神社玉垣、絵馬の奉納、記念碑、ブロック塀の新設を行いました。境内の環境整備が充実したことを記念して平成8年(1996)3月記念碑を建立しました。

・森天神社記念碑

森天神社は、天文11年(1542)6月創建されました。天正14年(1586)大友、島津の戦いの火で焼失、その後村民によって寛永5年(1628)再興されました。さらに昭和40年(1965)乙津川の改修工事により、移転を余儀なくされた岩船八幡宮を森天神社の宮地に移築しました。この時、森天神社と岩船八幡宮を合祀することになり、若宮八幡宮となったことに伴い、記念碑を建立しました。



・五厘社の碑

五厘社は、明治24年(1891)大津太四郎が、幸富太郎、大津幾三郎と共に作ったものです。青年がよく働き、真面目な気風を作ることとを目的として、家業の暇をみては草履、縄、綱などを作ることをすすめ、その利益金を一人一日五厘ずつ積み立てて、組合員がお互いに助けあい公共事業をおこなしました。組合員は40名、お互いに励ましあってよく働き、25年間も続けて実行しました。この事業が地方産業の奨励に役立ちました。



9 森水神塔

森地区は、昔から毎年のように大洪水にみまわれ、被害が多く発生し大変苦痛していました。このような大被害がないように、水の神様をおまつりし、地区の住民で毎年お参りしています。



10 鴨園川の排水ポンプ場

近年の異常気象等により、住宅への浸水被害がたびたび発生しました。このため国土交通省大分河川国道事務所では、浸水被害の軽減を目的に「排水ポンプ場」を平成19年(2007)3月新設しました。雨が続き鴨園川の水位が上がるため、ポンプを運転して強制的に雨水を排水します。毎秒4トンの排水能力があり、今後、過去と同じ規模の雨が降っても被害を大幅に軽減することができるようになりました。



11 中嶋水天宮石祠

この地区は、近年まで毎年のように大洪水にみまわれ、被害が多く大変苦痛していました。そこで、このような大被害がないように、そしてこの被害でなくなった人や牛、馬の鎮魂を込めて水の神様をおまつりし、皆でお参りしました。以前乙津川河川敷の中にありましたが、河川整備と堤防建設のため、現在地に移しました。



12 或司竹五郎塔

中島生まれであるが、生年不明。江戸末期は地方相撲が盛んで各々の祭典等に必ず宮相撲が盛大に行われ奉納されてきました。当時の名行司ではなかったかと言われています。「願主府内領小野津留色(村)隅田川金五郎惟継」と向かって左側に刻まれ、裏側に「石工、久下新作、同源助、同仁兵衛」と刻まれています。



13 後藤九右衛門の碑

江戸末期、最後の庄屋を勤めた皆春中島の人で、大変立派な人でした。名前は幸治、又は道忠といい、家業に励み、仏教をうやまい、水害などの被害が出るに率先して、私財を投げ出し村人を助けました。この功績により同屋敷内に「顕徳碑」が建てられ、村人からしたわれたと言われています。万延元年(1860)78歳で亡くなりました。



14 阿部征矢太郎の碑

明治元年(1868)5月2日森町村に生まれ、英吉利法学校(現在の中央大学)を明治26年(1893)卒業。明治28年(1895)28歳で県会議員。その後、別保村村長等多くの要職を勤め、大分県の発展に大きく貢献しました。また郷土別保のため別保橋の架橋などに多くの業績を残しました。県会議員在任中に亡くなりました。享年54歳でした。



15 乙津川の各水門(樋管)

大雨等で区域内の浸水対策として排水調整、乙津川の水位が上昇した場合等に樋管(水門)の開鎖作業を行い浸水被害を未然に防止する重要なものです。別保校区には、乙津川下流から乙津第二樋管・皆春第一樋管・皆春第二樋管・森第一樋管・森第二樋管・岩舟樋管の六箇所があります。



16 稲葉吉郎先生の碑

別府で明治20年(1887)3月に生まれ、別府小学校を卒業後、明治村の市原富士吉氏を師として傘の製法を習い、その後別保村に移り住んで、傘の製骨を業としました。村内近郊の人達に仕事を教え、斯業の改善、販路の拡張に励み、地方産業の発展に貢献し、また村会議員としても活躍しました。



17 荒木治郎八先生の碑

文久3年(1863)12月4日皆春に生まれ、明治17年(1884)から皆春小学校、別保小学校の教員として40余年に亘って、1400人余の生徒を指導し、聖職一途に勤めました。大正12年(1923)教え子達により記念碑が建立されました。



18 皆春小学校跡地の碑

明治8年(1875)創設。皆春、中島を学区として授業を開始し、明治20年(1887)4月1日より尋常小学校となりました。明治22年(1889)4月1日森村、森町村、皆春村が合併し別保村となりました。明治25年(1892)7月13日森町尋常小学校と統合し、現在の別保小学校の位置に別保尋常小学校として移転しました。



19 皆春天満社

文化9年(1812)に菅原道真公を主祭神として創建されたと古文書に記録されています。明治9年(1876)近郷近在各社の豊田別命、倉稲魂命、素戔鳴命、吉備子親王の四柱の神々が合祀され現在に至っています。



皆春天満社 祭典山車
春季例大祭は、4月の第2日曜日、昭和51年(1976)頃から時代の変遷で、祭典日が変更になると共に御輿の寄進により各地区で5台の山車が新調されて、区民総参加による祭典が盛大に実施されています。



・市名木 皆春天満社の楠の木

平成12年(2000)4月3日大分市の名木として指定されました。樹齢250年位、高さ17m幹周4.0m。文化9年(1812)に菅原道真公を主祭神として創建されたときに植えられたものと言われています。[高さ等は、平成18年度調査]



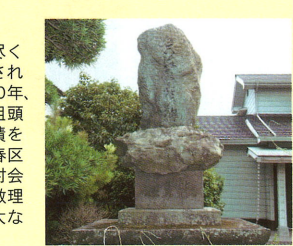
20 荒木燕之の墓

門田の人で、俳諧、華道、茶道に卓越した人でした。俳諧を能くし、俳号を燕之と称し、その道の宗匠と仰がれました。また群書檢術、馬術、華道、茶道等の諸芸に通じ人々に尊敬されました。詳細な記録は東京帝国大学(現東京大学)に保存されています。明治42年(1909)3月亡くなりました。



21 合沢電書翁の碑

終始一貫地方自治のため力を尽くされました。明治10年(1877)推されて皆春青年団長を勤めること10年、明治28年(1895)には皆春消防組頭に選ばれ勤続9年、皆著しい功績を残しました。その後学務委員、皆春区長、皆春天満社氏子総代、別保村村会議員等を勤め厚徳で明敏にして敦理にすぐれており、みんなの信頼大なるものがありました。



22 明治大分水路

灌漑水路として明治30年(1897)1月10日着工。明治33年(1900)5月竣工。大分川の中流、挟間町大字谷の取水口から大分川の水を引き鬼崎、横瀬を経て廻瀬野、内種田等を灌漑し、さらに滝尾地区から牧、高城等を通り池平から明治で分岐し、一つは森、森町、皆春を灌漑、一つは千歳、三川、三佐を灌漑する延長本線32kmに及んでいます。別保へは、明治地区葛木の東側でトンネルが終りここから南北に分岐し一方は南に進み、森、森町地区、一方は北に進み皆春善福寺方面へと進み灌漑されています。

